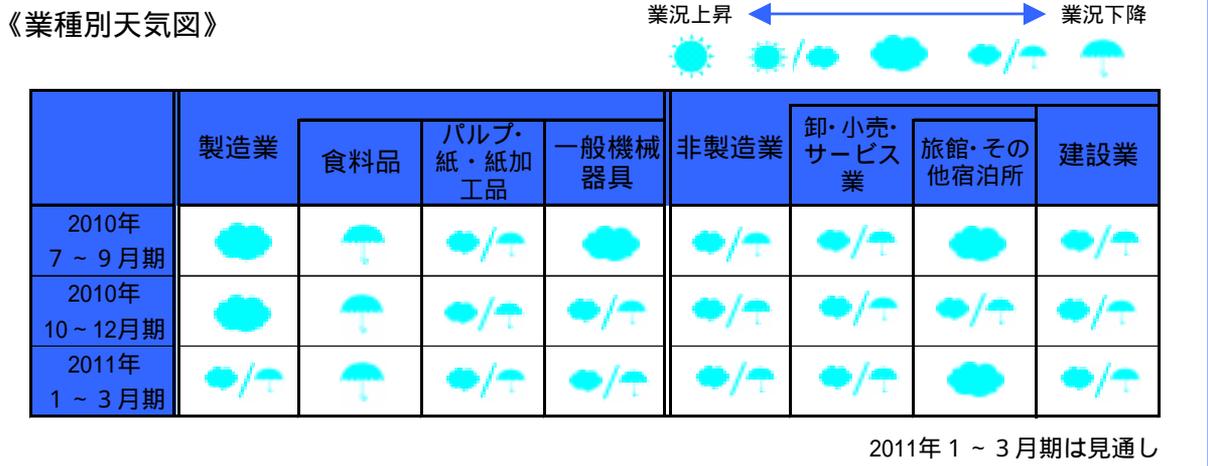
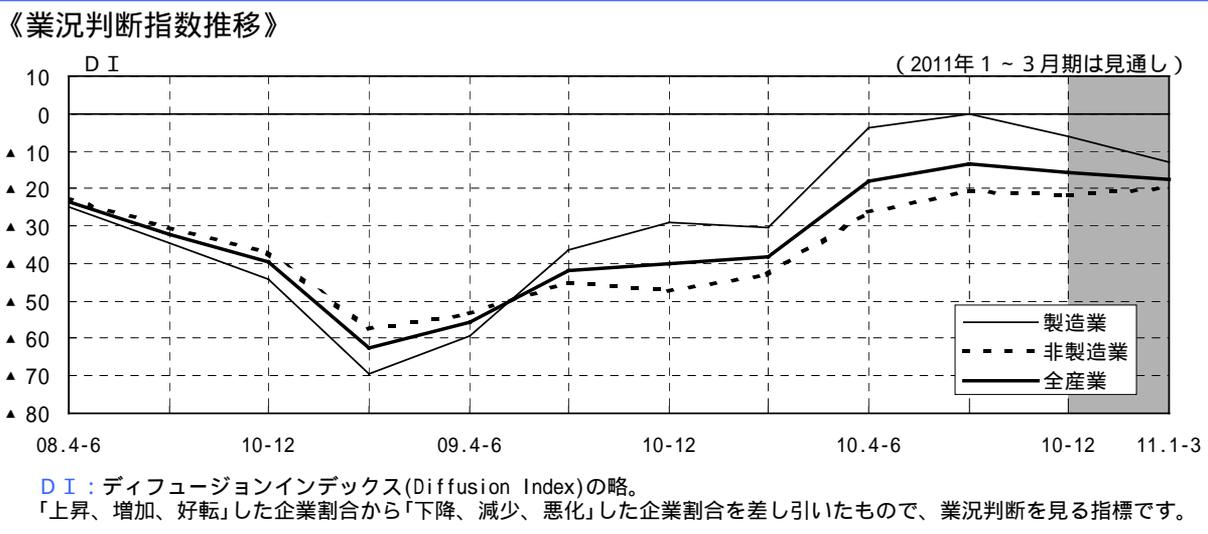


業況概要(自社) ～ 製造業を中心にD Iは低下に転じる～

静岡県東部地域における2010年10～12月期の業況判断D I (対前年同期比)は全産業で▲15.9(前期▲13.4)となり、2009年1～3月期以来の低下に転じた。製造業の業況判断D Iは▲6.1(同0.0)と再びマイナス水準となった。売上、利益等の動向は堅調であるが、稼働率、在庫水準等で足元の状況が悪化したことが判断に影響したとみられる。一方、非製造業でも▲21.8(同▲20.6)と低下している。

2011年1～3月期の予想D Iは全産業で▲17.4と引続き低下を見込んでいる。製造業は売上や利益動向への懸念を背景に▲13.1とさらに低下を予想、一方、非製造業は▲20.0と小幅ながら上昇期待がみられる。



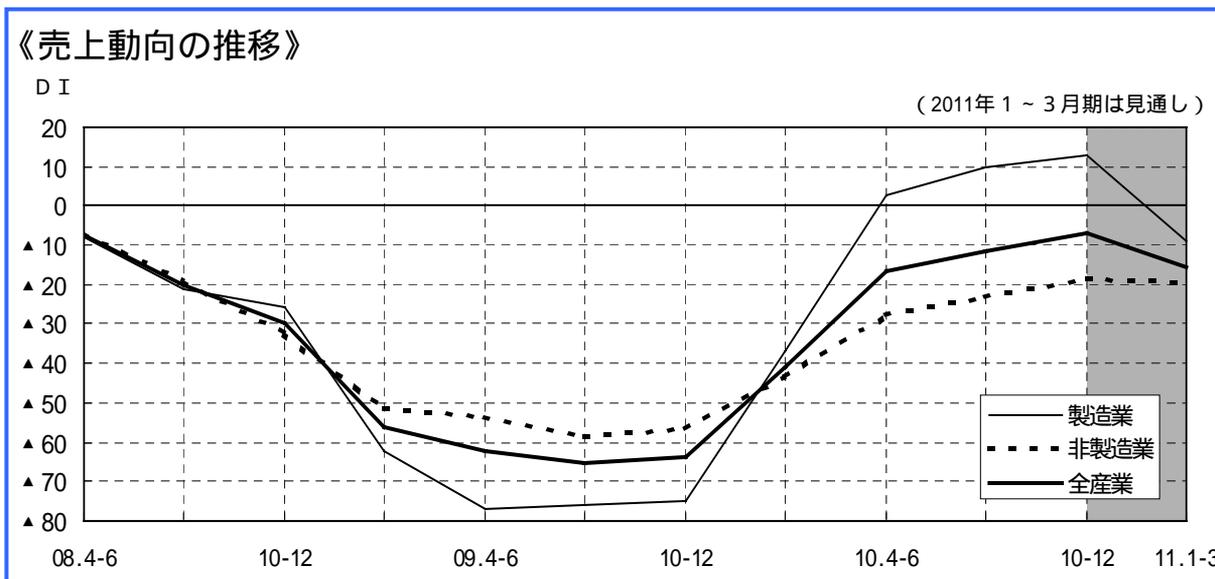
《調査の概要》

- | | |
|---|---|
| <p>1. 調査目的
静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握</p> <p>2. 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 1,050社
回答数 264 (回答率 25.1%)
業種別企業数は4ページ図表を参照</p> | <p>3. 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査</p> <p>4. 調査対象期間
実績:2010年10～12月期
見通し:2011年1～3月期</p> <p>5. 調査時点
2010年11～12月</p> |
|---|---|

売上動向 今期D Iは上昇、来期は全産業で低下の見通し

2010年10～12月期の全産業の売上動向D I（対前年同期比）は▲6.8（前期▲11.5）で、上昇傾向を維持している。製造業では食料品でD Iが大きく低下したが、パルプ・紙・紙加工品や一般機械器具では改善し、全体D Iは13.1(同10.0)と3期連続でプラス水準となっている。また、非製造業でも建設業やその他小売・サービス業でD Iが上昇し、全体D Iは▲18.8（同▲23.0）と改善が続いている。

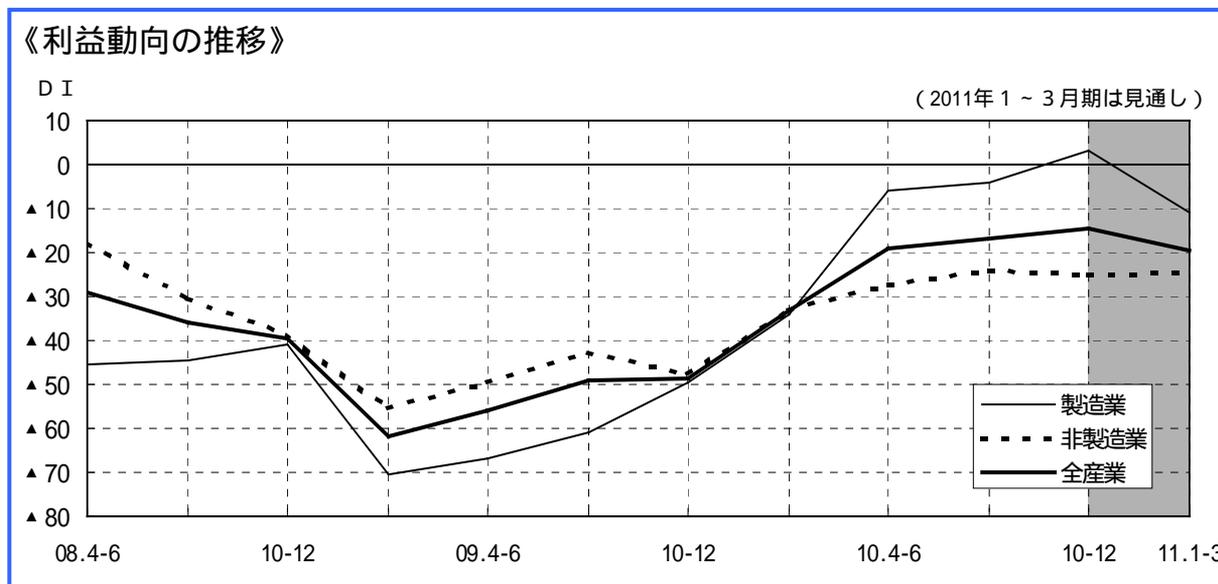
2011年1～3月期（見通し）の予想D Iは、全産業で▲15.6と一転して低下が見込まれている。特に製造業では▲9.1と今期比大幅な低下が予想され、好調を持続してきた売上動向が悪化する懸念が強まっている。また、非製造業でも▲19.5とわずかながら低下を見込んでいる。



利益動向 製造業の今期D Iは上昇、来期は一転して低下の見通し

2010年10～12月期の全産業の利益動向D I（対前年同期比）は▲14.4（前期▲17.0）で、売上と同様改善傾向を維持している。うち、製造業は一般機械器具を中心にD Iが上昇し、全体D Iは3.0（前期▲4.0）と2006年10～12月期以来のプラス水準を回復した。一方、非製造業ではその他小売・サービス業でD Iが上昇したが、建設業でD Iが再び低下し、全体D Iは▲24.8（同▲24.1）とほぼ横ばいで推移している。

2011年1～3月期（見通し）の予想D Iは、全産業で▲19.4と一転して低下を見込んでいる。特に今期まで順調だった製造業で▲11.1と大幅な低下が予想され、先行きへの懸念が強く示されている。また非製造業では▲24.4と引続き横ばいでの推移が見込まれている。

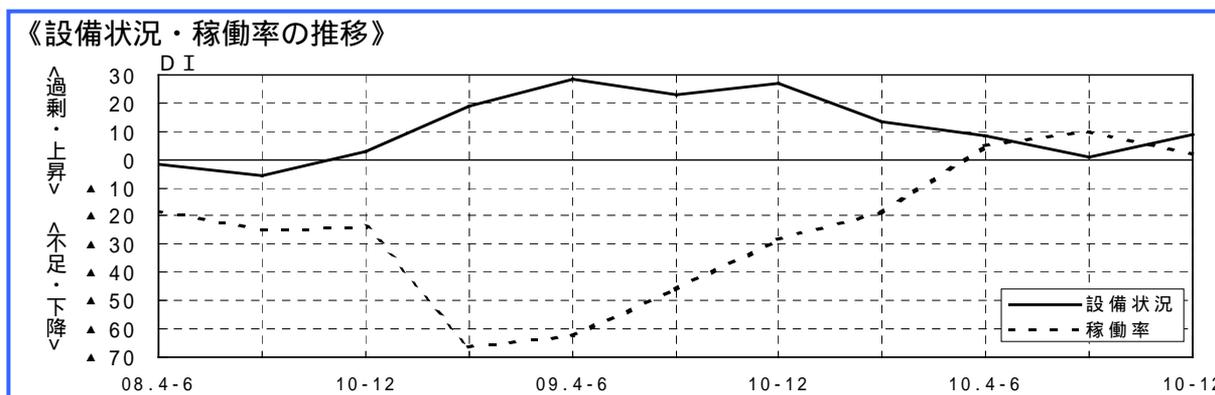


**設備状況・稼働率
(製造業)**

設備状況は「過剰」感強める、稼働率D Iは反転して低下

2010年10～12月期の設備状況D Iは9.1(前期1.0)と1年ぶりに上昇に転じ、再び「過剰」感が強まった。業種別ではパルプ・紙・紙加工品やその他製造業でD Iの上昇が目立つ。

一方、稼働率D Iは2.0(同9.9)と反転して低下し、「上昇」感は弱まっている。一般機械器具ではD Iが上昇しているが、食料品やその他製造業で大きく低下している。

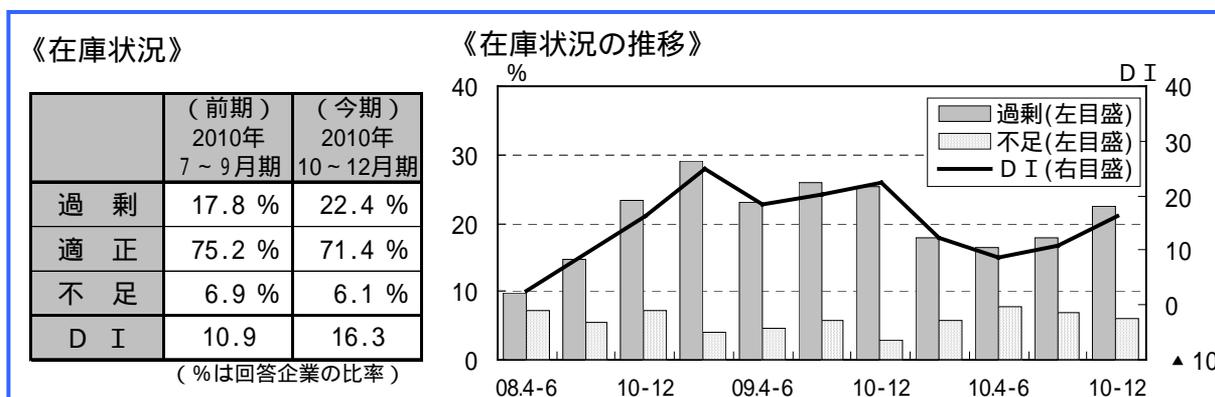


在庫状況(製造業)

D Iはさらに上昇、在庫過剰感が強まる傾向続く

2010年10～12月期の在庫状況(製造業)D Iは16.3(前期10.9)と前期からさらに上昇し、在庫過剰感が強まる傾向が続いている。「過剰」と判断する企業の比率が1年ぶりに全体の20%を超えている。

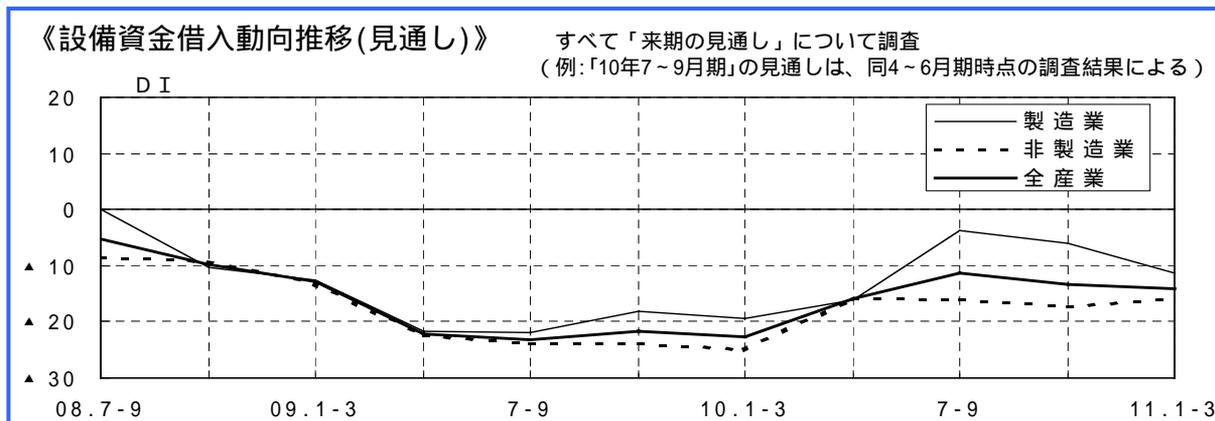
業種別では、金属製品でD Iが低下し「不足」となったが、食料品やパルプ・紙・紙加工品ではD Iが大幅に上昇し「過剰」感を強めている。



**設備資金借入
動向(来期)**

製造業でD Iの低下続く、非製造業では小幅ながら上向き

2011年1～3月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)D Iは▲14.1(前期▲13.2)となり、小幅ながら2期連続して低下し、借入抑制の基調が強まっている。うち、製造業で▲11.2(同▲5.9)と低下が続いているが、非製造業では▲15.9(同▲17.3)と小幅ながら上向きに転じている。



経営上の問題点

「その他経費の増加」上昇、「原材料・仕入れ商品の値上がり」低下

1位から5位までの上位項目は前期と変わらず、また全体に対する回答比率も概ね前期比同程度の水準にある。一方、6位以下をみると、製造業で「その他経費の増加」の指摘が増加し、全産業における比率も17.8%（前期13.1%）と上昇した。一方、円高による輸入品価格等の低下を背景に「原材料・仕入れ商品の値上がり」の指摘は14.4%（同17.9%）と引続き低下している。

《経営上の問題点（上位8項目）》

（社、%）

	10年4～6月期		10年7～9月期		10年10～12月期		順位 変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 受注・売上の停滞・減少	197	68.9	198	68.3	180	68.2	
2. 過当競争・製品安	148	51.7	141	48.6	123	46.6	
3. 人材の育成	95	33.2	95	32.8	86	32.6	
4. 生産・販売能力の不足	59	20.6	72	24.8	65	24.6	
5. 従業員の高齢化	59	20.6	66	22.8	56	21.2	
6. その他経費の増加	44	15.4	38	13.1	47	17.8	
7. 人件費の増加	33	11.5	38	13.1	40	15.2	
8. 原材料・仕入れ商品の値上がり	82	28.7	52	17.9	38	14.4	

《業種別：回答企業数およびD I》

設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	12	▲83.3	▲50.0	▲16.7	▲50.0	33.3	8.3
パルプ・紙・紙加工品	18	▲16.7	▲38.9	11.1	▲27.8	27.8	▲33.3
金属製品	15	73.3	60.0	6.7	46.7	▲7.1	▲13.3
一般機械器具	18	44.4	38.9	▲11.1	27.8	16.7	▲11.1
その他製造業	36	19.4	0.0	27.8	2.8	13.9	▲5.7
製造業計	99	13.1	3.0	9.1	2.0	16.3	▲11.2
旅館・その他宿泊所	18	▲5.6	▲16.7	-	-	-	▲16.7
その他小売・サービス業等	97	▲17.5	▲13.4	-	-	-	▲10.0
卸・小売・サービス業計	115	▲15.7	▲13.9	-	-	-	▲11.1
建設業計	50	▲26.0	▲50.0	-	-	-	▲26.5
非製造業計	165	▲18.8	▲24.8	-	-	-	▲15.9

特別調査：
円高の影響（製造業）

全体の約6割の企業で、経営上マイナスの影響を指摘
望ましい為替レートの限度は1ドル=90円～94円が最多

今夏以降の円高による影響が特に大きいとみられる製造業を対象に、円高による経営上の影響を質問し、回答結果を集計・分析した（回答数99）。

円高による経営上（売上・利益水準面で）の影響は、「マイナスが大きい」「ややマイナス」の合計が59.6%と約6割に達し、「プラスマイナス同程度」は29.3%、「ややプラス」「プラスが大きい」は7.1%にとどまった。

業種別では、輸送用機械器具、電気機械器具、一般機械器具などの輸出との関連性が強い産業で「マイナスが大きい」「ややマイナス」とマイナスと判断する企業が全体の6割以上を占めているが、内需型産業の性格が強い食料品やパルプ・紙・紙加工品でも同比率が4割～5割に達している。

具体的なマイナス影響としては、自社の直接輸出の減少、取引先の海外移転・生産移管による需要減、取引先の業況低迷の波及、安価な輸入品との競合など多岐にわたっている。また内需型の業種でも、円高による国内景気の悪化で消費意欲が減退し、自社製品の需要減につながっているとの指摘が目立つ。一方、プラスの影響としては食料品やパルプ・紙・紙加工品で輸入原材料価格の低下によるメリットが指摘されている。

望ましいと判断する為替レートの限度（82社が回答）で最も回答数が多いのは1ドル=90円～94円（31.7%）、以下95円～99円、100円～104円の順で、全回答の平均値は1ドル=92.8円となっている。

【円高による経営への影響】

	(%)
マイナスが大きい	23.2
ややマイナス	36.4
プラスマイナス同程度	29.3
ややプラス	6.1
プラスが大きい	1.0
不明	4.0

【為替レートの限度（1ドル=）】

	(%)
84円以下	8.5
85円～89円	13.4
90円～94円	31.7
95円～99円	23.2
100円～104円	15.9
105円以上	7.3